

# 救急・集中治療調整センター (ECCOC) の組織改編について

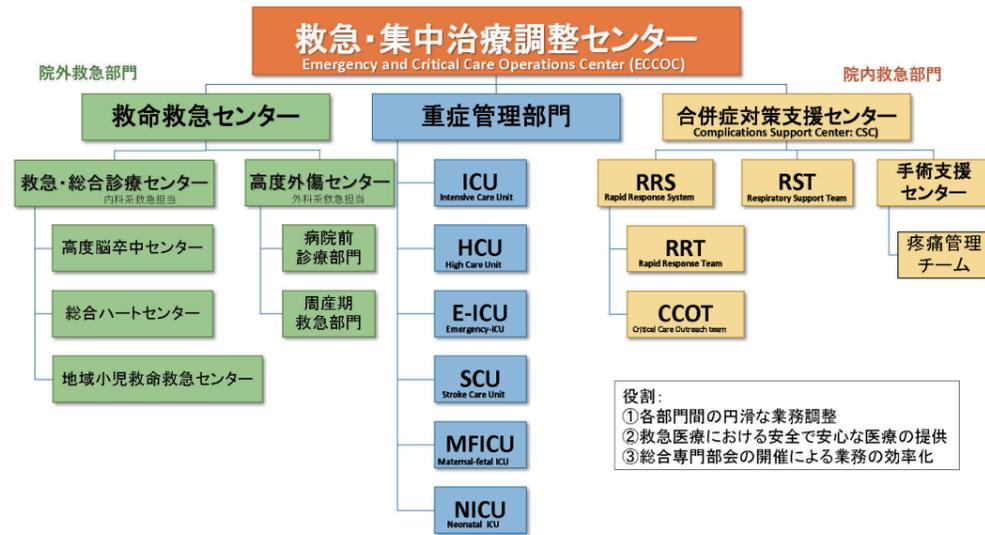
救急・集中治療調整センター センター長 わたなべ ひろあき  
渡部 広明

当院では、救急および集中治療に関する関係各部署のシームレスな救急医療提供のため、これを調整する、「救急・集中治療調整センター (ECCOC [通称イーコック])」を設置しております。ECCOC の役割は、①各専門的救急部門間の円滑な業務の調整、②救急医療における安全で安心な医療の提供、③総合専門部会の開催による業務の効率化促進です。今回、ECCOC では地域の医療機関の皆様にも、よりわかりやすい救急部門の組織体制を目指して組織図の一部改変を行いました。

従来、救命救急センターと高度外傷センターが救急の窓口としておりましたが、従来の救命救急センターを「救急・総合診療センター」と改称し、これに「高度外傷センター」を加えた両者を、救命救急センターとする組織改編を行いました。これまで大学の救急受け入れがわかりにくい、とのご指摘がございましたので、内科系救急は「救急・総合診療センター」へ、外科系救急は「高度外傷センター」へとよりわかりやすく改組いたしました。

また、安全で安心な医療の提供を目指して設置しておりました院内救急部門を、RRS (rapid response system)、RST (respiratory support team)、手術支援センターの3つからなる、「合併症対策支援センター」と改変しました。これにより従来以上に院内での急変や他診療科にまたがる高度な手術症例に対してより安全に対応することが出来るようになります。さらに、今年4月には「地域小児救命救急センター」を開設いたしました。

ECCOC の組織改編により、連携のとれた安全な救急医療の提供を引き続き目指して参ります。



問い合わせ先 救急・集中治療調整センター/高度外傷センター TEL:0853-20-2757

## 2024 年度 ワークライフバランス川柳

賞名	受賞作品	ペンネーム (又は氏名)
椎名病院長賞	ロング後は 時短料理で 巻き返す	めめみかん
和田副医学部長賞	甲子園 定時で退社 推し大社	こっちのたま



Shimane University Hospital  
島大病院ニュース

2025年  
6月  
Vol.140

# NEWS



## CONTENTS

中表紙  
・乳腺外科学講座 教授就任のご挨拶  
・アレルギーセンター  
センター長就任のご挨拶

裏表紙  
・救急・集中治療調整センター (ECCOC) の組織改編について

表紙: 病院長補佐 Acute Care Surgery 講座 教授 渡部 広明





# 乳腺外科学講座 教授就任のご挨拶

乳腺外科学講座 教授 かどや たかゆき  
角舎 学行



5月1日付で島根大学医学部に乳腺外科学講座が新設され、その初代教授を拝命致しました。私は広島に生まれ1992年に広島大学医学部を卒業し、その後2年間のマウントサイナイ医科大学（ニューヨーク）留学を挟み広島県内の病院で乳がん診療を行ってきました。2011年からは広島大学附属病院乳腺外科の責任者として12年間勤務し、2023年に当院に乳腺センターが設立されるのを機に島根に参りました。

乳がんの診療は、近年、目まぐるしく進歩しています。手術では内視鏡手術やラジオ波焼灼療法など乳房をより綺麗に残す術式が開発され、当院でも標準術式

となりました。薬物療法ではホルモン療法、化学療法に加え分子標的治療薬が続々と登場し、治療成績が飛躍的に向上しています。

その一方で、複雑になった薬物療法を行うことの出来る専門家の育成が急務になりました。そのため、日本を代表するがん薬物療法の専門家である先端がん治療センターの田村研治教授とともに、若手の人材育成を進めていかなくてはなりません。

乳腺外科学講座が設置された背景には、最先端の乳がん治療を島根県でも行うことが出来るようにという大学病院の要望があります。「乳がんになったけど島根県に住んでいて良かった」と安心していただけるよう、全身全霊で島根県を引っ張っていきたく思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

問い合わせ先 外科外来 TEL:0853-20-2384

# アレルギーセンター センター長就任のご挨拶

アレルギーセンター センター長 ちぬき ゆうこ  
千貫 祐子



4月1日付でアレルギーセンターのセンター長を拝命いたしました千貫祐子と申します。私は島根医科大学医学部を卒業後、医師人生のほとんどを本学で過ごしてまいりました。そのような中でアレルギーの臨床と研究に出会い、その奥深さに興味を持ち、良いアレルギー研究が出来れば島根から世界に発信できることを知り、ライフワークとして取り組み今日に至ります。

現代は、国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患を持つといわれています。その内容はアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、好酸球性胃腸炎など多岐に渡り、診療科の垣根を超えた協力体制が必要です。

島根県唯一のアレルギー疾患医療拠点病院として、小児科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、呼吸器内科、消化器内科の先生方、また関連する薬剤部や栄養治療室の皆様と協力して、島根県のアレルギー疾患克服のために精進してまいりたいと思います。そして何よりも、当アレルギーセンターは地域の先生方のお力添えがあってこそ成り立つものと思われまますので、地域の先生方とも密に連携して、アレルギーの臨床や研究に取り組ませていただきたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 皮膚科外来 TEL:0853-20-2382



# ご報告

## 大規模国際ゲノム解析で変形性関節症の原因となりうる700の遺伝子を発見

整形外科 教授 うちお ゆうじ 内尾 祐司  
 助教 たくわ ひろし 多久和 紘志  
 助教 いとう しゅうじ 伊藤 修司

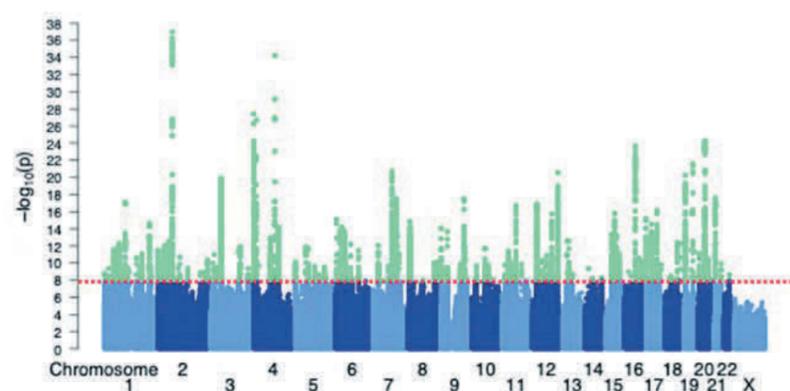
変形性関節症は、膝関節や股関節をはじめ、全身のあらゆる関節を侵し、痛みなどのために日常生活、健康寿命に大きな影響を与え、要介護をもたらす危険性の高い疾患です。変形性関節症は遺伝要因と環境要因の総合的な作用により発症すると言われ、その遺伝要因の解明は非常に重要です。

この度、変形性関節症の遺伝要因の解明を目的とするゲノム解析のための国際コンソーシアム（GO コンソーシアム）に島根大学の地域包括ケア教育研究センターが行う Shimane CoHRE Study として、我々の膝関節検診調査研究が参画しました。合計 489,975 人の変形性関節症患者と 1,472,094 人の対照のデータ（うち Shimane CoHRE Study は 1,614 人の変形性膝関節症患者）を用いたゲノムワイド関連解析（全ゲノムの遺伝子多型と疾患との関連を解析する方法）の国際メタ解析（図 1）を実施し、変形性関節症の原因となる可能性が高い 700 の遺伝子の特定に貢献しました。そのうち 10% がすでに他の疾患などで承認されている薬剤であり、これらが変形性関節症に対する治療薬となる可能性があります。また、特定された遺伝子の多くが変形性関節症発症にかかわる分子経路に含まれていることが分かりました。

本研究は、今後の変形性関節症の原因・病態の解明、治療法開発などの研究の基盤になると期待されます。本研究は、科学雑誌『Nature』オンライン版（4月9日付）に掲載されました。

本研究は、今後の変形性関節症の原因・病態の解明、治療法開発などの研究の基盤になると期待されます。本研究は、科学雑誌『Nature』オンライン版（4月9日付）に掲載されました。

図1 変形性膝関節症の国際メタ解析結果



個々の点は一塩基多型 (SNP) を示し横軸が染色体上の位置を示します。縦軸は対数変換した関連の強さを示す値です。赤色の破線よりも上の SNP が変形性関節症と有意な関連があることを示します。

<論文情報>

Konstantinos Hatzikotoulas, et al., "Translational genomics of osteoarthritis in 1,962,069 individuals", Nature, DOI: 10.1038/s41586-025-08771-z

問合せ先 整形外科 医局 TEL: 0853-20-2241



# お知らせ

## 新たな大動脈弁人工弁置換術 ～縫合・結紮を必要としないスーチャレス弁～

心臓血管外科 診療科長  
 助教

やまさき かずひろ  
 山崎 和裕  
 いまい けんすけ  
 今井 健介



心臓には4つの弁があり、スムーズに血液を送ることに寄与していますが、そのうちのひとつである大動脈弁が硬くなり、開きにくくなることでおこる「大動脈弁狭窄症」が最近とても増加しており、ここ島根でも例外ではありません。

当院では、心臓血管外科・循環器内科を中心としたハートチームで、カテーテルによる人工弁植え込み術「TAVI」を2018年4月から実施しております。ただし、残念ながらこのTAVIもすべての方に行えるわけではなく、今までは硬くなった大動脈弁を切除し人工弁を縫い付ける、従来の「人工弁置換術」しかありませんでした。

今回、この人工弁置換術とTAVIを組み合わせた「スーチャレス (Sutureless) 弁」を用いた治療も当院で可能となりました。スーチャレス弁とは、スーチャ (Suture)、つまり縫う必要のない (レス; less) 弁で、硬くなった大動脈弁を切除後ステントの力を利用して固定することで、縫い付ける時間を短縮することができます。開胸手術ではありますが、別の手術を同時に行う必要のある症例や大動脈弁の小さい方への治療など、さらには現在当院ではTAVIの適応のない透析患者さんへの治療など、条件によりますが大変有効な治療方法となります。

当科では、パーシバル (Perceval®: Corcym社) というスーチャレス弁を用いて良好な成績を積み重ね、今までは治療のたびに他院の先生の指導の下おこなっておりましたが、当科の今井健介助教が資格を取得し今後は積極的に行っていきたいと考えております。

この結果当院でも、ハートチームとして大動脈弁狭窄症に対するすべての治療法が可能となり、一人ひとりの患者さんにあわせた、より安全で確実な治療の提供を目指してまいります。

問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384





島大病院ニュース 2025年6月

# お知らせ



## 島根大学における臓器提供・腎移植に関するトピックス

泌尿器科 教授 和田 耕一郎 (わだ こういちろう)

新規透析導入件数の増加は鈍化しましたが、「腎不全医療に待たなし」の状況は続いています。透析にかかる医療費は年間約1兆5,000億円にのぼり、脳死・心停止下で実施される献腎移植を希望される方は15,000人もおられます。一方、腎移植は全国の移植施設の合計で年間2,000件程度、うち献腎移植は約150件程度で推移しており、需要に全く追いついていない状況です。

腎移植によって寿命が延び、食事や水分制限が緩和され、アスリート並みのスポーツ、海外を含めた旅行が可能となり、妊娠・出産や、小児では身長が伸びることが期待できます。さらに腎移植で医療費の削減も見込めます。腎移植希望の患者さんは、親族に腎提供者がおられる場合には生体腎移植を受け、おられない場合には献腎登録して待機しておられます。現在は血液型が異なっても生体腎移植が可能で、献腎・生体腎移植ともに経済的負担は非常に軽くなっており、ハードルが低くなっています。

島根大学では1988年に第1例目の腎移植を実施し、これまでに51件の腎移植を実施しました。手技や免疫抑制剤の進歩により、移植腎の生着率や生存率も延長しています。最近では、院内で発生した重篤な感染性合併症を鑑み、すでに免疫があっても水痘・帯状疱疹のワクチン接種を実施して腎移植を行っています。また、新規の免疫抑制療法の導入や、ウイルス感染の予防薬も導入し、移植成績の向上に取り組んでいます。

移植医療は「人が人を助けたいと思う気持ち」で成り立っています。当院では、臓器の提供・移植を希望されるドナー・レシピエント候補の方々やご家族に対し、意思確認、腎臓の摘出と移植、その後の通院まで円滑に進められるよう、移植コーディネーターを多数配置しております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

	血液透析(HD)	腹膜透析(CAPD)	腎臓移植(生体・献腎)
通院回数	週に3回	月に1回	1~3か月に1回
免疫抑制剤	不要	不要	不可欠
食事・水分制限	多い	やや多い	少ない
旅行・出張・スポーツ	制限あり	制限あり	自由
出産	極めて難しい	極めて難しい	薬の調整で可能
小児の成長(身長)	成長障害	成長障害	期待できる
社会復帰率	中程度	やや高い	高い
その他の利点	・最も確立した腎不全医療法	・血液透析に比べ自由度が高い	・生体腎移植で血液型が不適合でも腎移植が可能 ・透析からの解放感

問合せ先 泌尿器科外来 TEL: 0853-20-2387



2025年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年6月

# お知らせ



医学部生の研究成果や実験の様子

## 解剖学講座 発生生物学トピックス

解剖学講座 発生生物学 教授 藤田 幸 (ふじた ゆき)

私たちの研究室では、脳や脊髄など中枢神経系の発生や成長の仕組みを明らかにすること、そして病気や加齢によって傷ついた神経機能を回復させる方法を探ることを目標に、研究を進めています。人が動いたり話したり、感じたりする基盤となるのは、神経細胞同士が作る精緻なネットワークです。私たちは、この重要な神経回路がどのように構築されるのか、分子レベルでのメカニズムを明らかにするための研究を進めています。

最近の研究では、神経幹細胞の分裂をコントロールする新たなメカニズムの一端を明らかにすることができました。これにより、神経回路の形成プロセスについてさらに深い理解へとつながると考えています。一方で、まだ解明すべきことは多く、これからの探究が非常に重要であると捉えています。

また、教員や大学院生だけでなく、医学部生も研究に取り組み、論文や学会発表を経験しています。今年の4月から新たに研究を開始した医学部生も増えました。研究を通して、自ら疑問を掲げ、主体的に取り組むことで、将来的な医療現場においても幅広い視野と深い洞察力をもって活躍されると期待しております。

これからも、島根大学から新たな知見を発信し、皆さまの健康に少しでも貢献できるよう努力してまいります。今後とも、温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

問合せ先 発生生物学事務室 TEL: 0853-20-2102



2025年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ

## 多職種連携による転倒・転落予防への取り組み

転倒転落対策ワーキンググループ リーダー（リハビリテーション科） ためま たく 蓼沼 拓

患者さんが入院中に転倒・転落をすると、骨折などの合併症により本来の治療が中断される、体動が制限されて寝たきりになる、入院期間が延びるなど、さまざまな不利益が生じます。これは患者さん個人の生活だけでなく、社会全体の生産性にも影響を及ぼす重大な問題です。しかし、転倒・転落の予防は一つの視点からだけでは解決できません。そのため、医療安全管理部が連携・支援する形で、2022年に『転倒・転落対策ワーキンググループ』が立ち上がりました。このグループでは、看護師、医師、薬剤師、療法士など、職種・部署をこえて協力し、院内全体で取り組める対策を検討・実施しています。

これまでの主な取り組みは以下のとおりです：

### 1. 推奨薬剤の周知

不眠時の頓服薬について、転倒リスクの少ない薬剤を推奨し、医師に周知しました。

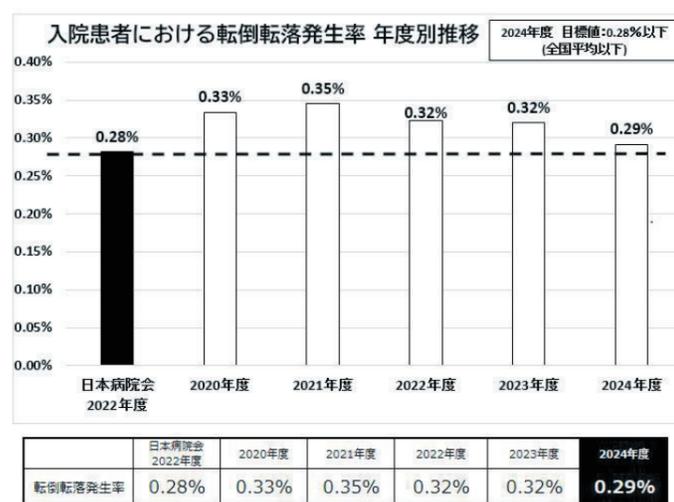
### 2. 「はきもの」情報の提供

入院中に望ましい履物について患者さんに案内し、患者さん自身にも転倒予防に積極的に関わっていただいています。

### 3. 多職種による再発防止策の検討

複数回転倒された患者さんに対して、病室の環境や服薬状況を多職種で確認し、改善点を話し合いながら、患者さんご本人にも参加していただき、次の転倒を防ぐ方策を一緒に考えています。

約3年にわたる取り組みの中で、徐々に成果も見え始めています。今後も、患者さんに安心・安全な療養環境を提供できるよう、病院全体で対策を進めてまいります。



※当院における2020年度から2024年度の転倒・転落件数の推移 (日本病院会の2022年度統計を基準にした比較)

問合せ先 医療サービス課 医療安全担当 TEL: 0853-20-2066



# ご報告



## 第41回中国四国医科学学生柔道大会を主幹し 大会でも好成績を残しました！！

島根大学医学部医学科5年 田村 泰地

我々、島根大学医学部柔道部は、5月5日（月）に松江市の島根県立武道館で開催された第41回中国四国医科学学生柔道大会を主幹しました。2021年に活動を再開し、今大会が初の主幹大会でした。慣れない主幹業務でしたが、島根県柔道連盟や審判員の先生方、島根大学柔道部（松江キャンパス）の方々をはじめ、平日頃お世話になっている地域の方々からの多大なるご協力を賜り、無事に大会を開催することができました。この場を借りて関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、遠路ご参加いただいた各大学の皆様にも併せて御礼申し上げます。

さて、大会結果につきましては、男子団体戦第3位、女子団体戦優勝、男子個人戦無差別級第3位（田村泰地）、女子個人戦準優勝（小林美晴）と大健闘しました。特に、女子団体戦は初出場初優勝の快挙を達成致しました。これは、各部員が課題意識を持ちながら、部内での練習だけでなく、地域の方々とも合同稽古をさせていただいている成果であると考えています。

また、本大会は「中国四国で医学を学ぶ者同士の柔道の技術の向上、同じ医療従事者として柔道を通じて親睦を深めること」を目的に掲げております。そして、実際に本大会を通じ、大学の枠を超えた交流がより深まりました。柔道を通じて得られた絆は生涯続くものと考えています。

今後も精力善用・自他共栄の精神を忘れずに、楽しみながら柔道の練習を続けて参りたいと思っています。皆様、引き続き応援よろしくお願いいたします。





島大病院ニュース 2025年6月

# ご報告



島大病院ニュース 2025年6月

# ご報告



更新された血管撮影装置 (Azurion 7 B20/15 LN (PHILIPS))

脳血管内治療の様子

## 血管造影装置を更新しました

脳神経外科 助教 かんばら みずき  
神原 瑞樹

頭頸部血管撮影は、頭部の血管病変の精査に必須の検査となります。また急性期脳梗塞に対する機械的血栓回収術や、脳梗塞再発予防のための頸動脈ステント留置術、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術など、頭頸部・頭蓋内病変に対する脳神経血管内手術が多く行われています。また脳血管障害以外に、脳腫瘍の摘出前の栄養血管塞栓術や、慢性硬膜下血腫の再発予防の血管塞栓術等の手術も行われています。

頭頸部血管撮影や脳血管内治療には、血管造影装置が必要ですが、放射線部に設置している以前の機器が10年以上経過したため、2025年3月に「Azurion 7 B20/15 LN (PHILIPS)」に更新しました。以前の撮影装置と比較してより解像度が高く、鮮明に見えるため、検査・手術時間が短くなることで放射線被ばくの低減が期待されます。また造影剤の使用量も少なくなるため、腎臓を始めとした臓器障害の危険性が低くなるが見込まれます。

2024年には当施設で、血栓回収術を始めとした脳神経血管内手術を約90例行っています。脳卒中・脳神経外科の診療・治療が、さらに進化し、かつ安全に提供出来るように取り組んで参ります。

問合せ先 脳神経外科 医局 TEL : 0853-20-2245

## リハビリテーションスタッフ3名が心不全療養指導士に認定されました

リハビリテーション部 療法士長 えぐさ のりまさ 江草 典政  
理学療法士 いまおか けい 今岡 圭

当院リハビリテーション部では、患者さんの回復を支えるため、日々専門的な知識と技術の向上に努めています。このたび、当部門に所属する理学療法士の平野瑛士、難波春地、永尾悠の3名が、昨年12月に実施された心不全療養指導士認定試験に合格し、資格を取得しました。

心不全療養指導士は、日本循環器学会が認定する専門資格であり、心不全の発症や重症化を予防するために必要な知識や技能をもつ医療専門職に与えられます。理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士など、多職種が取得可能な資格であり、心不全患者さんが適切な治療を受けながら日常生活を維持できるよう、セルフケアや服薬管理、運動療法、食事指導などを多職種と連携してサポートする役割を担います。

今回の合格により、当院の心不全療養指導士は計9名（理学療法士4名、看護師1名、薬剤師2名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名）となり、多職種が連携した心不全診療体制がさらに強化されました。今後も、専門性を高めたスタッフが一丸となって協力し、心不全患者さん一人ひとりに最適な療養支援を提供できるよう努めてまいります。

\*本資格取得は島根大学医学部附属病院医療従事者等の資格取得及び研修参加の助成を受けています。



問合せ先 リハビリテーション部 TEL : 0853-20-2457



2025年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



## 「遺伝情報を活用したがん予防」の啓発活動を行っています！

腫瘍内科/先端がん治療センター 教授 <sup>たむら けんじ</sup> 田村 研治  
臨床遺伝・ゲノム医療センター 副看護師長 <sup>あらき こ</sup> 荒木 もも子

2025年4月9日(水)、遺伝とがんについての正しい知識を知っていただき、遺伝情報を把握することで、自分や周りの大切な人々の健康を考え、がん予防につなげていただきたいという思いで、島根スサノオマジックのホームゲーム開催時に松江市総合体育館において「遺伝情報とがん予防」の啓発活動を行いました。

当日は、当院と松江市立病院の認定遺伝カウンセラー3名と本学がんプロ事務局のスタッフが、島根スサノオマジックの津山尚大選手に協力いただいて作成したパンフレットを配付し、遺伝情報を知ることで自分や家族のがん予防につながることを伝えました。

尚、パンフレットやポスターは、県内の病院や公共機関など様々な施設に配布させていただいております。ゲノム医療も進展し、これからは自らの遺伝情報を知り健康管理をしていく時代になりつつあります。しかしながら、診断された当事者の方々が不安なお気持ちになることもありますし、社会の中で生きにくさを感じておられることもあります。本プロジェクトを通して啓発活動を行うとともに、診断された方々を長期的に支援できる体制づくりにも励んでいきたいと思っております。

問合せ先 臨床遺伝・ゲノム医療センター TEL: 0853-20-2383 (小児科外来内)



この知識は、  
世代を超えて、  
受け継げる。

遺伝情報を知ることで  
予防できる「がん」がある。

島根にはプロバスケットボールチームがある。試合のある週末には、何千人もの観客が試合会場を訪れる。バスケットボールは、もう島根の文化だ。でも、それは、当たり前のことじゃない。バスケットボールに関わる人たちの行動と努力が、島根に根付き、受け継がれていく。スポーツも医療も、社会に根付き支える文化だ。すべての人にとって身近な病気「がん」がある。がんの研究が進み、リスクと向き合える時代になった。命を守るための努力が、集まりつつある。生まれたときの遺伝的特徴によって「がん」を発症しやすい人がいる。遺伝情報を知り、自分や大切な人の健康を守る。そんな社会を島根に根付きかせよう。それは世代を超えて受け継ぐことができる。優しくて大切な知識。

ご相談は以下の施設まで

島根大学医学部附属病院  
臨床遺伝・ゲノム医療センター  
[www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/clinical\\_genomics\\_center/](http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/clinical_genomics_center/)

松江市立病院  
ゲノム診療科  
<https://www.shimane-cityhospital.jp/cancer/center/genomics.html>

（企画）  
島根大学医学部附属病院 臨床遺伝・ゲノム医療センター / 松江市立病院 ゲノム診療科 がんゲノム診療委員会

（協力）  
中野・近藤医療情報プラットフォーム 島根大学がんプロ事務局長 / しまね遺伝医療ネットワーク  
厚生労働省がん研究開発推進委員会 がんゲノム医療推進委員会  
「ゲノム医療」を促したがん予防に関する啓発活動の推進に際しては、関係する各団体の賛同と協力を得て実施する。

島根大学医学部附属病院  
臨床遺伝・ゲノム医療センター

松江市立病院  
ゲノム診療科 がんゲノム診療委員会

津山選手が聞く 遺伝とがん

Q & A

がんは遺伝するのですか？

がんという病気が遺伝するのではなく、がんの発症しやすさが遺伝することがあります。がん患者さんの10%程度の方が、生まれつきがんを発症しやすい遺伝的特徴を持つと言われていて、こうした特徴の多くは、親から子へ1/2の確率で伝わります。このような特徴を持ち発症するがんを遺伝性がん（遺伝性がん）と呼びます。

遺伝とがんの関係について詳しく知りたい方は、こちらをごらんください。

idm-gan.jp

「がんの発症しやすさ」が遺伝するということですね。自分が、がんになりやすいかどうか、どこで相談できますか？

島根県内では、  
松江市立病院 松江赤十字病院  
島根県立中央病院 島根大学医学部附属病院  
で遺伝カウンセリング及び検査が可能です。  
血液検査により遺伝情報を調べ、  
遺伝カウンセリングとあわせて診断を行います。

しまね遺伝医療ネットワーク  
しまね遺伝医療ネットワークのHPをごらんいただき、相談できる施設のHPをご確認ください。

遺伝カウンセリング  
荒木もも子

しまね遺伝医療ネットワーク  
竹下美保

遺伝カウンセリングという言葉をはじめて聞きました。

遺伝に関するあらゆる悩みを相談できる場です。私達認定遺伝カウンセラーや臨床遺伝専門医など遺伝医療を学んだ医療者が対応します。相談にいらした方の考えや思いをお聴きし、意思決定のご支援をいたします。

がんに関連した相談例

- 自分の家族はがんが多いから、遺伝性なのを知りたい。
- 主治医に「遺伝性のがんの可能性がある」と言われた。詳しいことを教えて欲しい。
- 祖母は卵巣がん、母は乳がんにかかった。私もがんのリスクがあるか知りたい。
- 遺伝子検査でがんを発症しやすいことがわかった。今後の対策を知りたい。
- 遺伝性の大腸がんと診断された。家族もがんになりやすいのか心配。

自分の遺伝的特徴を検査して知っておけば自分はもちろん、家族みんなのがん予防に、この知識を役立てることができそうですね。

「将来がんを発症しやすい」と知ること、不安になることもあるかもしれませんが、しかしがんは早期発見で、根治することが可能な病気です。自分の遺伝情報を知り、がん予防につながることを私たちは長期にわたり支援いたします。

健康を守ろう。  
自分や大切な人の  
遺伝情報を知り



島大病院ニュース 2025年6月

# お知らせ

## 百寿者研究を開始しました！

腎臓内科 診療科長	かんだ たけし 神田 武志
腎臓内科 副診療科長	よしの じゅん 吉野 純

老化は、がん、2型糖尿病、慢性腎臓病（CKD）を含む生活習慣病の危険因子として知られています。これら生活習慣病などに伴う健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命」の延伸は超高齢化社会を迎える日本において最重要課題の一つと言えます。

百寿者（100歳以上の人）は健康長寿のモデルとされ、老化・寿命研究の分野で大きな注目を集めています。実は、島根県は人口（10万人）あたりの百寿者の割合が、全国平均の2倍以上の約160人であり、12年連続日本最多（2024年9月時点）となっています。

そこで、腎臓内科では、百寿者研究の世界的な研究拠点である慶應義塾大学医学部・百寿総合研究センターと共同し、出雲市役所の協力のもと、島根県の百寿者を対象とした臨床研究を開始いたしました。本研究においては、百寿者のライフスタイル（食生活、職歴、社会的環境など）の調査、ゲノム解析、尿サンプルのメタボロミクス、腸内細菌叢の解析などを行います。このたび、百寿総合研究センターの新井康通先生にもご同行頂き、最初の試験参加者である出雲市在住の100歳の女性を訪問いたしました。被験者の方の、快活さ、記憶力には非常に驚かされ、百寿者の元気を実感する貴重な機会となりました。

今後もさらに本研究を進め、島根県の百寿者から元気で長生きの秘訣を探って行きたいと思っております。



左より、吉野副診療科長、新井康通先生、出雲市在住100歳の女性、神田診療科長

問合せ先 腎臓内科 医局 TEL：0853-20-2122



2025年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年6月

# ご報告



## 出雲市民フォーラム2025春を開催しました！

総務課企画調査係

4月26日（土）に医学部臨床小講堂において、リクエストの多かった「がん」をテーマに、今年度最初の市民フォーラムを開催しました。当日は定員を超える来場者があり、関心の高さがうかがえました。

はじめに、病理診断科の新野大介教授が『「がん」とはなにか?』と題し、がんの発生や原因、罹患状況について解説しました。がんは発症から発見される大きさになるまで10～20年かかるため、自覚症状がなくても定期的に検診を受けることや、生活習慣の見直しによって予防を図ることの重要性を訴えました。

続いて、腫瘍内科の田村研治教授が、がん遺伝子の異常と治療薬の関係を踏まえつつ、最新の抗がん剤や副作用軽減のための薬剤、がんゲノム医療などについて、図解を用いてわかりやすく説明しました。

さらに、放射線治療科の玉置幸久准教授が、放射線治療の仕組みや実際の治療方法について、具体的な症例を交えて詳しく紹介しました。治療例では患者さんの生活背景にも触れ、参加者の理解が一層深まりました。

質疑応答では、ご自身やご家族の治療に関する具体的な質問が多く寄せられ、泌尿器科専門の椎名浩昭病院長も参加して、それぞれの問いに丁寧に答えました。締めくくりとして、椎名病院長が地域医療における当院の役割と今後の展望について紹介しました。

アンケートでは、「大変わかりやすかった」「質問に親身に答えてくれた」「がんになっても島大病院があるから安心できる」といった声が多く集まりました。

次回の市民フォーラムは、6月8日（日）に松江で「救急医療」、8月24日（日）に出雲で「脳」をテーマに開催する予定です。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL：0853-20-2531



2025年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

島大病院ニュース 2025年6月

## 入院編

### 患者満足度データが示す、当院の医療の質と信頼性 — 高水準・高評価を支える継続的な取り組み —

患者満足度向上WG

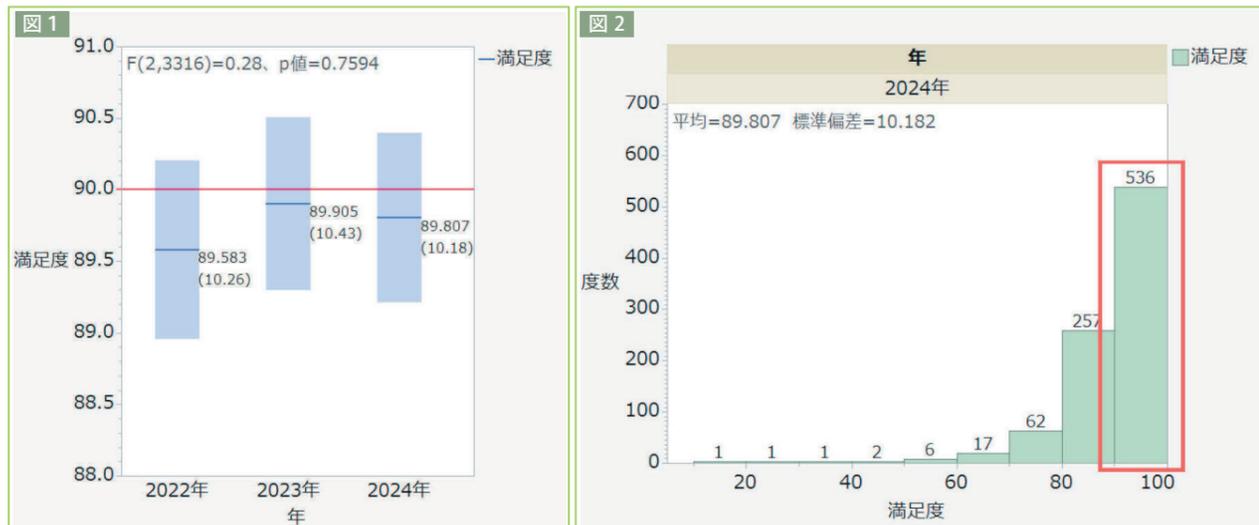
かわむら としひこ  
医療情報部 准教授 河村 敏彦

当院では、入院患者さんの療養環境やサービスの向上を目的に、年2回の患者満足度アンケートを実施しております。2024年度に実施した最新調査では、1,158名の方にご回答いただきました。

2024年度の平均満足度スコアは89.81点(95%信頼区間: 89.22~90.39)と高水準を維持しており(図1)、90点以上の評価をつけた方は全体の46%にのびりました(図2の赤枠)。特に医師・看護師・職員の対応については「非常に満足」「満足」との回答が95%を超えており、質の高い医療サービスへの信頼がうかがえます。

一方、「食事」に関しては相対的に不満の声が多く(約15%)、統計的にも有意な差があることが確認されています(p値<0.0001)。これを受けて、現在は栄養治療室と連携し、味付けや温度管理、盛り付けの工夫、さらには選択メニューの拡充などに取り組み、併せて提供内容の説明強化を通じて、サービス認知の向上も図っています。また、「病室の清潔さ」については、清掃体制の見直しやチェックリストの運用強化により、改善傾向が見られました。

今後も「患者さんの声」を医療現場に反映し、地域の病院・クリニックの先生方から安心してご紹介いただける病院づくりを進めてまいります。



問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-20-2067



2025年6月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# ご報告

島大病院ニュース 2025年6月

## 外来編

### 患者満足度データが示す、当院の医療の質と信頼性 — 高水準・高評価を支える継続的な取り組み —

患者満足度向上WG

かわむら としひこ  
医療情報部 准教授 河村 敏彦

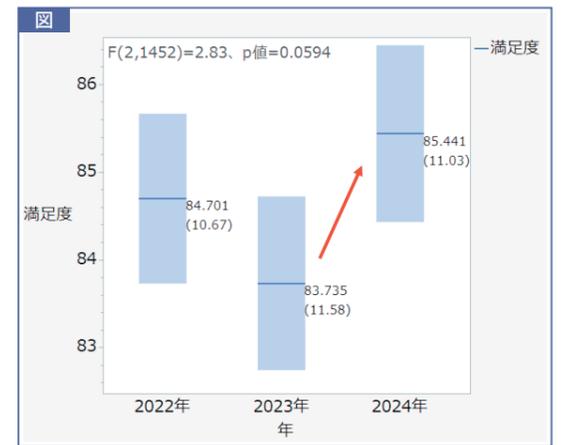
当院では、外来診療におけるサービスの改善を目的に、年2回の患者満足度アンケートを実施しております。2024年度の調査では、275名の方にご回答いただきました。

2024年度の平均満足度スコアは85.44点(95%信頼区間: 84.44~86.44)と、過去3年間で最も高い水準となりました。2023年度との比較においては、統計的にも有意な改善が認められており、現場の取り組みが成果として表れています(図)。特に「医師・看護師の対応」や「窓口事務員の対応」に関する設問では、「非常に満足」「満足」との回答が95%を超えており、多くの患者さんから高い評価をいただきました。

一方で、「診療までの待ち時間」や「診察後の会計までの待ち時間」に対してはそれぞれ30%超の方が不満を感じており、「駐車場の管理・運営」についても10%を超える不満を表す回答が確認されています(p値=0.0096)。なお、これら以外の満足度60点未満の回答についても見過ごすことなく、自由記載をもとに1件ずつその要因を分析し、サービス改善の糸口を探る取り組みを行っています(写真)。

そして、こうした課題に対しては患者満足度向上ワーキンググループ(WG)を中心として、診療フローや会計業務の見直し、駐車場案内・誘導體制の改善など、段階的に具体的な対応を進めております。

今後も「患者さんの声」を真摯に受け止め、患者満足度向上WGを軸とした継続的な取り組みを通じて、安心・快適な外来医療の実現をめざしてまいります。



患者満足度スコアの年度別推移



外来ロビーでは、患者満足度アンケートの結果と改善の取り組みを掲示しています。

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-20-2067



2025年6月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

